



氣田 量子
(自民公明クラブ)

赤ちゃんへの絵本プレゼント ブックスタート事業の再開を

効果的な支援を検討する

問 赤ちゃんへ絵本を贈るブックスタート事業は、赤ちゃんが絵本に親しむ機会が得られ親子の絆が深まると同時に、絵本を通じた心の育成が進むと考える。事業を再開する考えは。

答 関係機関と連携を図りながら、絵本のプレゼントを含め効果的な支援について検討します。

問 東・西・南コミュニティセンターの指定管理運営では、指定管理者の営業努力で得た収益が次年度の予算から差し引かれる仕組みのため、収益向上の意欲がそがれ、運営の質の向上につながりにくい。制度の見直しが必要ではないか。

答 自主的な経営努力による利益分を除かないよう、インセンティブの確保に努めています。

問 町内会長などが集まった地域コミュニティによる運営は初めてのため税に対する知識が少なく、社会保険労務士や税理士費用等が運営を圧迫している。適切な費用配分が必要では。

答 社会保険労務士等の経費は指定管理者の判断で依頼しているものと考えられるため指定管理料の積算には含まれませんが、令和7年度から新たに人件費の3%分を間接経費として加算するため、こちらを活用できると考えています。

問 次の契約までに指定管理者としっかり話し合い、柔軟な契約や予算配分を検討できないか。

答 情報交換を密にし、効率的な運営と市民サービスの向上に努めます。

問 医療費抑制のため、発症リスクが増加傾向となる50歳から64歳の方に対し、带状疱疹ワクチン接種費用の半額助成を行う考えは。

答 带状疱疹後神経痛の発症は70代以降で増加するとの報告があり、50歳から64歳の方への助成は考えていませんが、定期接種対象者が安く接種できる機会を逃さぬよう、周知に努めます。



笹 渕 峰 尚
(黎明親和会)

公共交通に対する 財政負担軽減の取組は

駒らんパスの在り方や 料金の見直しが必要

問 十和田市地域公共交通計画の進捗状況は。

答 今年度の状況は、市街地循環バス利用者は増加の一方、路線バス利用者は減少し、年間利用客数は目標75.8万人に対し69.5万人の見込みです。料金設定の見直しや駒らんパス発行により、まちなか交通広場の日平均利用者数は目標100人に対し217人の見込みで、平均乗車密度は11路線中10路線が上昇見込みです。また、路線バス収支率は43.6%、公共交通への市の財政負担投入額は1億2,300万円の見込みです。

問 公共交通に対する今後の財政負担の予想は。

答 利用者の減少に伴う運賃収入の減少等により、財政負担は増える見込みです。

問 財政負担を軽減するための取組は。

答 路線バス事業では、利用者が減少している路線の減便等を行っているほか、市街地循環バスでは、運賃無料乗車証「駒らんパス」の在り方や料金の見直しも今後必要と考えています。

問 市長の公約にあるトップセールスは、今後どのように展開していくのか。

答 大手量販店において開催される青森県フェア等への参画はもちろん、女性の視点から、特に主婦層にとわだ製品の魅力をPRするなど、様々な機会を捉えてトップセールスを実践し、販売促進に努めたいと考えています。

問 ニンニク生産量日本一の取組と成果は。

答 京都高島屋にて十和田奥入瀬観光大使りんごちゃんがPRを行ったほか、東京ビッグサイトで開催された第3回宿観光旅博覧会にて、ニンニクに特化したPRを行いました。また、ふるさと自慢わがまちCM大賞に作付面積日本一の動画を応募したところ、ユニーク賞を受賞しテレビによるPRが可能となりました。